



早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム

平成27年度取組概要

大学の世界展開力強化事業（採択年度23年度（タイプB-1））

【構想の概要】

本構想は、早稲田大学創設者・大隈重信が掲げていた「東西文明の調和」という理念に基づき、今後の国際社会において様々な分野で強いリーダーシップを発揮できる人物を育成するプログラムである。米国東部の4大学および西部2大学の計6大学との協働教育により、本学学部生のみならず米大学の学部生を将来の世界のリーダーへ育成していく。

【プログラムの目的・養成する人材像】

プログラムの目的: アジアの台頭により、世界の経済・政治・文化はますます多極化し、一つの国だけの問題でない地球規模の問題への取組が急務となっている。こうした世界において、アジア地域と西洋諸国双方の歴史、文化、社会を熟知し、その価値観を理解し、互いに尊敬・尊重しあうことで優れた判断や意思決定を行うことができる人物を育てる。

養成する人材像: 『東西文明の調和』の精神を更に深め、多様な価値観を尊重した意思決定を下すグローバル・リーダー。

東洋・西洋の歴史・文化・社会等の知識

世界共通の高貴な価値観-
勇気・奉仕・貢献

知的能力・人間力・コミュニケーション能力

地球規模の様々な問題を自ら提起し解決する
国際/政府機関・財界・アカデミクス等
各界でリーダーシップを発揮できる人物

実施した交流プログラム概要 今後の開始に向けた準備

第5回合同推進会議の実施

H27年6月に第5回合同推進会議を早稲田大学にて開催した。本会議には、既存の米パートナー校6大学（コロンビア大学、ジョージタウン大学、ダートマス大学、ジョンズホプキンス大学、カリフォルニア大学バークレー校、ワシントン大学）が参加。計24名の教職員が集まり、①Integrated Study Year（日米共同ゼミ、グローバル・リーダーシップ・フェローズ・フォーラム）の経過報告、②米国学生向けインターシップの実施報告、③協定校担当者同士による米国学生募集方法の共有、意見交換。④プログラム評価および、今後のプログラム運営に関する具体的な情報共有、議論等を行った。



学生フォーラム発表会の実施

H27年6月の合同推進会議実施直後に当プログラムの必須科目である、学生フォーラム（グローバル・リーダーシップ・フェローズ・フォーラム）の第1回目の発表会を本学大隈記念タワーにて実施した。アメリカ協定校の教職員、また学内外から多くの方に出席を頂き、学生計5グループの発表を行った。学生の発表内容、質ともに充実していると高評価を得、また会場からの質問も多くなされ、盛会のうちに終了となった。

Integrated Study Year の実施

H27年9月より、2期目となるIntegrated Study Year（日米共同ゼミ・学生フォーラムからなる1年間の日米学生の協働学習カリキュラム）を実施した。日米双方の学生の不安をなくすべく、またコミュニティ形成の一環として、授業開始前に1泊2日のフィールドトリップ（軽井沢）を行った。2つのゼミおよびアジアにおけるグローバルな問題定義と提案を学生自ら企画し実践する学生フォーラムにおいて、日米の学生は共に異文化間の相互理解と相互協力を体験的に学んだ。カリキュラムを通じて日米の学生達は絆の強いコミュニティを確立している。

自己予算の獲得

当助成事業終了後も当プログラムを永続的に継続して行くことが決定した。これを受けて、一部、外部機関からの資金寄付および、学内関連部署と協議、検討の結果、次年度以降も自己資金で運営して行けることになった。

質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

カリキュラム検討委員会の実施

学内各学部のプログラム担当教職員が集まり、米国学生受入時のカリキュラムについて検討する委員会を実施した。

教育内容の可視化・成果の普及

ウェブサイトによるプログラム・成果の普及

プログラムに関する事務的な情報のみならず、参加学生の活動を対外的に紹介するため、ウェブサイトとリンクする形で“Archives ページ”を設置し、学生の留学中の活動や成長の記録、気づきを綴ったレポートを公に発信。協定校担当者への遠隔地における体験の共有、学外者への認知拡大と次期プログラム出願希望学生への参加促進に大いに役立った。

GLFP1期生修了報告書の作成

プログラム参加学生第1期生が主導となって、学生視点で当プログラムのカリキュラム、各種イベントをまとめた修了報告書を作成した。学内外の関係機関、関係者に報告書を送付し、当プログラムの成果につき公表した。



学生の派遣・受入を促進するための環境整備

新規協定校の開拓

これまでアメリカ東部および西部の大学のみ協定校であったが、当プログラムを今後、拡大して行くため中西部の大学（シカゴ大学、ノースウェスタン大学、ミシガン大学）とも先方へ訪問のうえ、当プログラム参加の可否につき協議を行った。いずれの大学とも非常に良い関係にあり、近い将来に当プログラムに参加する可能性が高い。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

H27年秋学期より3期生となる早大フェローズ15名を派遣。またH27年入学者を中心に4期生を選抜し、14名の学生をH28年秋より派遣予定。

米国留学生の受入

計6名の学生をH27年9月より受入。H26年に比べ学生数が減少したため、積極的にアメリカ協定校での学生リクルートに努めた結果、H28年度は11名の学生を受入予定。

	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	—	5*	10	11	15
受入	—	9*	10*	11	6

*本プログラム開始に先立ち、既存の交換協定に基づき交流開始